

2025年度 学校評価報告書

1. 第IV期中期経営戦略（2022～2027年度）における本園のビジョン

「園児一人ひとりの成長を確かな形で保護者が実感することができる、
園児の主体性を伸ばす教育保育を実践するこども園」

2. 第IV期中期経営戦略の中期計画に係る 2025年度の成果

1) 園児の主体性を育む教育保育の展開

本園は「自分らしく生きる力を持った子ども」を育てほしい子どもの姿として掲げ、その実現に向けて保育環境の整備・充実およびカリキュラムの改編に継続的に取り組み保育の質的向上を図っている。

保育環境の整備・充実に係る今年度の取り組みとして、屋外では自然素材の製作コーナーや植物クイズコーナーの新設、泥んこ遊びの実施、植栽の追加などを行った。屋内では各クラスの園児の興味や関心を広げる各種遊びのコーナーを各保育室に設け、随時内容の更新を行った。また、共用ゾーンではライトテーブルの導入や楽器コーナーの拡充、大型エアマットの導入を行った。これらの取り組みの結果、園児の遊びの質的な向上（自発的、挑戦、探究、創意工夫、共同作業、生き物への関心、遊びへの没頭などプラスの変化）が見られた。

カリキュラムの改編については、今年度も引き続き園児との十分な話し合いや対話の時間が取れ、かつ、日常保育と行事とが自然につながるカリキュラムとなるよう心がけた。また、運動会における役割やダンスの振り付け、また生活発表会における演目や配役、台詞や振り付けを園児たちが自ら相談して決めるなど、主体性を尊重し育むことを大切にされた保育実践を行った。これらの結果、園児が何ごとに対してもより意欲的に取り組む姿が多く見られるようになり、「挑戦する力」、「自分で考える力」、「表現する力」などの伸長を確認することができた。

2) 積極的な情報発信の推進

在園児保護者に向けた施策のうち、アプリ配信のドキュメンテーションでは、クラス・学年のようすや活動について、保育のねらいや園児の育ちを含むテキスト、写真、動画で構成したコンテンツを、月に複数回発信することができた。同じくアプリで配信するポートフォリオでは、テキストと写真を用いて、月に1回お届けし、園児一人ひとりの育ちを保護者と共有することができた。また、園内での行事や園外保育における園児の生き生きしたようすが分かる動画コンテンツを10本以上制作・公開した。

未就園児保護者をターゲットとした施策については、園の雰囲気が伝わるようなトピックや子育て支援イベントを中心に、ホームページやインスタグラム、豊中市子育て支援公式アプリなどを通じて発信を行った。また、今年度から新たに Google Map への投稿も開始しコンタクト機会の増を図った。未就園児向けの事業については、フォーキッズを豊中市の子育て支援事業「マイ子育てひろば」の連携事業とし、さまざまなプログラムを用意し毎週開催した。学院内の中高生による吹奏楽コンサートや一日動物村などの特別企画も好評で多くの親子連れが来園された。

3. 課題について

2. に記述のとおり、2025年度に予定していた取り組みについては計画どおり実施でき、中期経営戦略は概ね順調に進捗している。園児募集に関しては、急激な少子化により今後ますます状況が厳しくなることが予測されるため、今後も未就園児保護者層への積極的かつ効果的な情報発信と来園機会の増大を図り、新入園児の安定的な獲得に努めることとする。

4. 学校評価アンケート結果について

本園では毎年度保護者に対してアンケートを実施し、より良い教育保育の実践および適正かつ円滑な園運営のために活用している。2025年度の保護者満足度（保護者推薦度＝他者に入園を勧める割合）は96.6%となり、前年度に続き非常に高い評価をいただくことができた。

また、教育保育の内容や質、教職員の対応、家庭との連携、園の運営方法などに関する個別の質問についても、24項目すべてについて90%以上の回答者から肯定的な高い評価をいただくことができた。これらのうち14項目については、直近の5年間で最も高い評価となった。

5. 学校関係者評価委員会からの意見について

学校関係者評価委員会からいただいた意見は以下のとおりである。なお、改善が必要な事項についてはすでに対応済みまたは対応に着手済みである。

1) 全般について

- ・子どもが毎日楽しく通園していることが何よりうれしい。
- ・園の教職員による自己評価は厳しめだが、実際はもっとできていると思う。
- ・成果はよく分かるが課題が分かりにくいのではないか。課題を明確化し次期に引き継げる仕組みが望ましいと思う。

2) 保育内容について

- ・ここ数年の改革により明らかに保育の質が良くなっているのを実感している。
- ・総合学園の強みを生かし、単独園では決してできない貴重な体験ができています。

3) 情報発信について

- ・たくさんの良い取り組みを対外的にどう見せていくかがポイントではないか。
- ・ドキュメンテーションとポートフォリオのおかげで子どものようすや育ちがとてもよく分かる。コメントもていねいである。
- ・子どもが撮影した写真をInstagramで紹介してみると、子どもの視点が分かりおもしろいのではないか。
- ・祖父母世代も園選びに関与している家庭もあると聞いているので、伝統の部分もしっかりと発信していくことが大切ではないか。
- ・活躍する卒園生の紹介などもおもしろいのではないか。

4) 働き方・人事について

- ・保育の質向上や可視化を実感しありがたいと思う一方で、先生に負荷がかかっていないか心配である。
- ・担任交代の理由をもう少し詳しく説明したほうがよいのではないか。
- ・産休に入る先生が交代する際に新しい担任の先生の紹介もあるとよいのではないか。

5) 園児募集について

- ・別の幼稚園の2歳児プレスクールに入ることによるデメリット（入園時の環境変化、送迎負担の増など）を考慮し、きょうだい関係に関するプレスクールの入会条件を再考してもよいのではないか。

6) その他

- ・保護者向けのサークル活動などがあればうれしい。

6. 総括

今年度においても、本園では、「自分らしく生きる力を持った子ども」を育ててほしい子どもの姿として掲げ、「育てたい5つの力」、「保育目標」、「保育方針」とともに全教職員で共有し、その実現のために日々の保育実践を行った。変化が激しく先が見通しにくい一方で、飛躍のきっかけやチャンスをつかむ機会が多くある現代社会において、自信を持って信念を貫き、困難があっても乗り越えて生きていける人間になるよう、一人ひとりの園児の育ちが最大化するよう努めた。そのために、専門性を高める園内研修の実施、実施者・参加者双方に学びがある園内研究保育の実施、園外研修や公開保育への積極的な参加と園内へのフィードバックなど、園を挙げてより一層の教育保育の質的向上に取り組んだ。

日常保育やさまざまな行事（過程も含む）のあらゆる場面で、今現在の子どもの姿を見取り、子どもの思いや願いを理解し、子どもの興味や関心の向き先を捉え、必要な援助を行ってきた。その結果、園児が自分（たち）で考え、決めて、最後までやり遂げる場面が多く見られ、自信や自己肯定感の獲得など豊かな育ちにつながっていった。また、それらについては、適時適切な形で保護者に対して発信し、園と保護者とで共有することができた。

以 上